

2011 年 2 月

# 年間活動報告書

2010 年版

外国為替市場発展のために

東京外国為替市場委員会

(Tokyo Foreign Exchange Market Committee)



2011年2月1日撮影

目 次

3 巻頭のことば(星野議長)

5 小委員会報告

14 東京外国為替市場委員会委員名簿(2011年2月1日)

## 巻頭のことば

東京外国為替市場委員会・星野議長

2011年2月

---

本日は、市場委員会の年次総会に際して、懇親会を開いて頂き誠にありがとうございます。たくさんの方々がいらっしゃる中甚だ恐縮でございますが、ご指名頂きましたので、御礼に加えてご挨拶を申し上げます。

昨年は3年に一回のBISによる恒例の為替出来高サーベイが行われました。右肩上がりの出来高の伸びもついに一服するかと心配されましたが、調査の結果は1日4兆ドルの出来高ということで、2007年時の3兆ドルを再び上回ることができました。

伸びの中身については昨年12月にBISが公表したペーパーが極めて端的にまとめてくれていると思いますが、ハイフリークエンシー取引と言われるアルゴリズム取引や日本の証拠金取引で注目を浴びるようになった個人の果たした役割が大きかったと思われまます。またこうした取引の背景には90年代後半以降規制緩和や、Prime Brokingや電子化といったテクノロジーの進展があり、金融機関と顧客の境というのはかなり低くなっております。ご存じの通り、為替市場というのは世界最大の市場でありながら、規制の少ない自由な市場であります。だからこそ、各国で中央銀行、市中銀行、仲介業者といった市場参加者が集まり自主的に取引のルールを決め、Code of Conductという形で行動規範の整備を行って参りました。金融機関、非金融機関の垣根が低くなった今、為替市場における市場取引の安全性、公平性、効率性をどのように守って行くかということが一つのテーマになってきているように感じます。我々もEコマースPTを常設の小委員会に格上げし、Code of Conduct小委員会と連携してそうした問題に取り組み始めたところでございます。

さて再び出来高調査の話に戻りますが、一昨年、2009年の市場委員会の出来高調査では、シンガポール市場にスポット市場の出来高を抜かれ、その後も年末にかけてあまり出来高が増えていなかったのがかなり心配しておりましたが、結果的には東京市場は、ロンドン、ニューヨーク市場につぐポジションを確保いたしました。もっともシェアは前回に引き続き6%ということで、2001年の9%、89年の15%と比べると低位安定というべきと思われまます。BISのレポートでも貿易量やGDPとの比較でみた為替市場の出来高が他の国に比べて東京市場は低いと指摘されています。ファンドや個人、アジア系ソブリンと我々の回りにはエンド顧客のレベルで為替プレイヤーが非常に多い、むしろ増えているにも関わらず市場としてそれを確りと吸収できていないという問題であります。統計の取り方の技術的な問題の有無も含めて、東京外為市場の現状分析と活性化ということで我々の中でも議論を始めたところでございます。

市場委員会では、これらの課題以外にも対円 NDF や決済、デリバ規制への対応、そういった様々な問題に付随する法律論等々について議論を活発化させております。またそうした議論の前提として各委員の理解と知識を深めるために、小委員会や本会議に積極的に内外から識者を招き話してもらい機会を作っていこうと考えております。そしてこのように収集した情報や議論した内容をもっと積極的に公表していくことも我々の使命であると考えております。

最後になりましたが、本日このような会を主催して頂いた日本銀行の皆様には常日頃絶大なご支援を頂き、ありがとうございました。今後も変わらないご支援を市場委員会の買う同に頂けますようお願い申し上げます。雑駁ではございましたが私のご挨拶とさせていただきます。

以 上

## 小委員会報告

### 運営小委員会

#### I. 委員会概要

- 運営小委員会は、東京外国為替市場委員会（以下「本委員会」）の円滑な運営のために、以下の実務的な機能・役割を担っている。
  1. 委員の選任・退任に関わる事項
  2. 役員の改選に関わる事項
  3. 本委員会において議論・検討すべき事項の確認、意見交換等
  4. その他、本委員会の運営に関する事項

#### II. 活動報告

- 2010年度は、「本委員会において議論・検討すべき事項」として、主に以下の項目について意見交換等を行った。
  1. 各小委員会の活動報告及び情報の共有化について
  2. 各国市場委員会との協力、情報交換について
    - ・ 海外の市場委員会事務局との電話会議（四半期毎に開催）の内容（竹内書記）
  3. 各国為替市場の動向について
    - ・ 為替取引のCCP化に関する議論・情報を共有
  4. フォレックス・セミナーの規模拡大に係る諸施策（外部著名講師の招聘等）について
  5. 本委員会の進め方について
    - ・ 本委員会での議論活性化のため、外部講師による時宜に適った議題の討議や、各小委員会からの重要議題に係る報告等諸施策の提案
  6. 市場委員会の会計監査について
    - ・ 平成22年会計年度について運営小委員会にて会計監査を実施

#### III. 今後の課題

- 為替取引のCCP化に関する情報を収集し方向性を議論する。
- 参加者の拡大、および銀行・証券・ブローカー以外からの情報収集方法を検討する。
- 東京外為市場活性化・プレゼンス向上に向けた諸施策を検討。
- 市場委員会の役割、存在意義についての議論を深める。（市場参加者への情報提供力強化や組織の見直し等。）
- 引き続き、各国市場委員会との情報交換や委員会内での情報共有化を進める。

以上

## 広報小委員会

### I. 委員会概要

- 広報小委員会は、東京外国為替市場委員会（以下本委員会）の活動を為替マーケットの参加者のみならず、社会に向けて発信することを目的として活動している。主な情報発信手段として本委員会のホームページに以下のような情報を掲載し、必要に応じ掲載内容を更新している。

1. 邦文および英文の「委員会議事録」
2. 新委員公募のお知らせやセミナー開催など委員会活動に関する情報発信
3. 緊急時の市場参加者への情報発信
4. 「コード・オブ・コンダクト」
5. 本委員会のメンバー、組織図
6. 当委員会作成の公表文書

また、ウェブサイトの運用に関しては、サーバーの見直しやレイアウトの変更など利用者の利便性を重視しつつ、低コストの運用を心がけている。

### II. 活動報告

- 昨年は、以下の点を重点的に実施。
  1. 年間活動報告書 - 2009年版の作成およびホームページへの掲載  
年次総会での各小委員会委員長による年間活動報告を取り纏め、年間活動報告書を作成し当委員会ホームページへ掲載した。
  2. 「東京外国為替市場における取引高サーベイの結果」の掲載  
2010年4月中の外国為替取引を対象とした第5回の取引高サーベイの調査結果を作成し、当委員会ホームページへ掲載した。

### III. 今後の課題

- 引き続き当委員会の情報発信・収集のニーズを理解し、適切かつ低コストのホームページの運営を行う。

以上

## 教育小委員会

### I. 委員会概要

- 教育小委員会は、セミナー等の実施を通して、東京外国為替市場に関わる人材の育成や新しい知識の普及に努める役割を担っている。

### II. 活動報告

- 2010年は、日本フォレックス・クラブとの共催で、以下の二度のフォレックス・セミナーを実施した。

1. 実施時期 2010年2月15日 18:30-20:30

実施場所 野村証券大会議室 アーバンネット大手町ビル20階

内容

第一部 「主要国の金融政策の先行き」

講師 加藤出氏

東短リサーチ株式会社

取締役 チーフエコノミスト

第二部 「当面の主要通貨の相場展望～ドル・ユーロ・豪ドル」

講師 植野大作氏

株式会社外為どっとコム総合研究所

代表取締役社長 主席研究員

2. 実施時期 2010年8月30日 18:30-20:30

実施場所 野村証券大会議室 アーバンネット大手町ビル20階

内容

第一部 「当面の為替相場見通し～ドル・円・ユーロの展望」

講師 唐鎌大輔氏

みずほコーポレート銀行

国際為替部 マーケット・エコノミスト

第二部 「API取引の現状～EBSプラットフォームによる分析」

講師 大木一寛氏

EBS ディーリング・リソース・ジャパン株式会社

リージョナル・セールス・マネージャー

### III. 今後の課題

- 現状の外国為替市場のニーズにあった形でのセミナー開催を続けることにより、人材の育成と市場の活性化を支援していく。

以上



## 法律問題小委員会

### I. 委員会概要

- 法律問題小委員会は、東京外国為替市場委員会（以下「本委員会」）の目的遂行のため、以下の役割を担う。
  1. 外国為替市場その他国際金融市場における取引に関する慣行や行動規範の法的な諸問題について、議論および意見交換を行う。
  2. 上記 1.について、具体的には、以下の活動を行う。
    - ① 本委員会から調査依頼のあった事項について、小委員会として法的な観点から検討し、見解をとりまとめ、フィードバックを行う。
    - ② 何らかの実務上の問題を想定し、例えば取引の安全性を確保するという観点で、法的な立場から検討し、本委員会に対してベストプラクティス等を提言する。
    - ③ 外国為替市場の取引に関し、本小委員会としての対応が必要となる場合に備えて、研究が必要と考えられるテーマについて、情報収集を行う。

### II. 活動報告

- 2010 年は、原則として 2 か月に一回小委員会を開催し、以下のテーマを中心に小委員会の趣旨に照らした活動を実施。
  - ・ 本委員会における議事のうち、本小委員会に関連する事項についての情報共有
  - ・ 法律問題、コンプライアンス等に関する時事トピクスについての意見交換
- 尚、以下のテーマについては、本小委員会委員の関心が高く、今後の継続的な検討課題との認識。
  - ・ ドット・フランク法による影響について、情報収集ならびに影響範囲の特定を行うこと。
  - ・ 外国為替取引の安全性を向上するという観点から、事業法人や信託勘定のファンドとの為替取引について考察すること。

### III. 今後の課題

- 以下のテーマについての議論・研究を中心に行う。
  - ・ ドット・フランク法による影響についての検討
  - ・ 外国為替取引の安全性を向上するという観点から、事業法人や信託勘定のファンドとの為替取引について法的側面からの考察
  - ・ その他

以上

## 市場調査小委員会

### I. 委員会概要

- 市場調査小委員会は、東京外国為替委員会による「東京外国為替市場における外国為替取引高サーベイ（以下、東京市場サーベイ）」を定期的実施し、海外主要市場の市場サーベイとの情報共有化を行うとともに、その内容について考察を行い、市場委員会の活動に結び付けていく。また、金融環境や市場の質・量の変化に対して、適宜調査活動を行う。

### II. 活動報告

- 2010年度は、主に以下の活動を行った。
  1. 2010年4月に「東京市場サーベイ」を行い、同7月公表。
  2. 「東京市場サーベイ」の以下見直しを実施。
    - ・ トレーディングデスクベースからセールスデスクベースへの変更
    - ・ 二重計上の調整
  3. BIS サーベイのデータ等を基に東京外為市場の現状分析と活性化について議論。

### III. 今後の課題

- 「東京市場サーベイ」の調査内容の更なる見直しについて、必要性の有無を検討する。
- 東京外為市場の現状分析と活性化について、取り纏めを実施する。

以 上

## Code of Conduct 小委員会

### I. 委員会概要

- Code of Conduct 小委員会は、東京外国為替市場の円滑な運営のために以下の実務的な機能・役割を担っている。
  1. 主にインターバンク取引における取引慣行遵守状況のモニタリング
  2. 為替市場の変化への対応の指針作り
  3. 新たに取り組むべき課題の認識

### II. 活動報告

- 2010年は、以下の通り活動を行った。
  1. 本委員会のホームページ上でリリースしている「CODE OF CONDUCT 外国為替・資金取引に関わる行動規範(2008年版)」のメンテナンス。(2010年は変更事項なし)
  2. E コマース小委員会と協働の上、電子取引のマーケットへの影響調査に参加。

### III. 今後の課題

- 海外の市場委員会とのより緊密な情報交換を通じ、Code of Conduct のアップデートを行う。
- E コマース小委員会と協働し、取引慣行・行動規範の観点から電子取引がマーケットに与える影響を調査の上、結果をマーケット参加者に還元することを検討する。

以 上

## 決済小委員会

### I. 委員会概要

- 決済小委員会は、本邦外国為替市場・資金市場（除く国内円）における決済業務に付随する事項を取り扱い、決済業務が円滑に行われるよう案件の検討を行い、東京外国為替市場委員会への提言を行う。

### II. 活動報告

- 信託銀行が受託するファンド・年金等との為替取引決済における CLS の利用可能性について現状の確認及び課題を議論。CLS を導入するために障害となっている事項、問題点の論点整理を行った。

### III. 今後の課題

- （株）東京証券取引所並びに（株）日本証券クリアリング機構と外為デリバティブ取引のポストトレード処理に関する共同勉強会を実施し、外為取引の CCP 化に関する意見交換を行う予定。

以上

## BCP 小委員会

### I. 委員会概要

- BCP 小委員会は、被災後の東京外国為替市場の機能維持と早期の機能回復を支援し、取引の混乱を市場全体として最小限に抑制するための市場レベルの「業務継続計画」を策定・運営する役割を担う。

### II. 活動報告

- 2010 年度は、以下の活動を行った。

#### 1. 三市場合同訓練の準備

- ・ シナリオ・スケジュール等に関する短期金融市場・証券市場との事前調整、連携体制の確認。
- ・ 外為市場訓練参加者への訓練案内、外為 BCP Web の登録状況整備の実施。

#### 2. 三市場合同訓練の実施（2010 年 11 月 17 日）

- ・ 二回目となる三市場合同訓練は、参加者の習熟度も向上し、スケジュール通りに進行。課題だった「意思決定の迅速化」についても、一定の成果が得られた。
- ・ 但し、携帯版 BCP Web 仕様改善や、訓練の高ストレス化等の要望も出された。

参加者（含む、客員・当局）      30 社      123 名

（前回訓練 30 社      155 名）

～不要アカウント整備等により参加者人員数は減少するも、参加機関数は前回比不変

#### 3. 外為 BCP Web 費用の参加者負担開始

- ・ 本年度より、BCP 参加者による費用負担を開始（除く客員）。

### III. 今後の課題

- 訓練結果を踏まえた課題への対応
- 外為 BCP Web の機能改善検討
- 他市場 BCP との連携の一層の強化

以 上

## E・コマース小委員会

### I. 委員会概要

- E・コマース小委員会は、為替取引の電子化が進行する中、主に以下の項目につき議論・考察を行う役割を担う。
  1. 為替取引電子化の現状把握
    - ・ インターバンク取引及び顧客取引の電子化の状況
    - ・ F X取引(外為証拠金取引)動向の把握
  2. 取引の電子化が外国為替市場に与える影響
    - ・ 市場流動性、ボラティリティ、潜在リスク
    - ・ 取引環境、行動規範

### II. 活動報告

- 2010年の活動は以下の通り。
  1. 当小委員会の今後の運営方針や活動計画につき議論（今年より、臨時小委員会から常設小委員会へ変更）＜6/16(水)＞
  2. ICAPよりAPI取引や銀行以外の利用者の増加状況聴取＜8/25(水)＞
  3. 金融先物取引業協会に往訪、F X取引のレバレッジ規制強化の影響などを聴取＜9/10(金)＞
  4. 日本銀行の分析資料を元に、電子取引が東京外為市場に与える影響につき論点整理するため協議。＜12/3(金)＞

### III. 今後の課題

- アルゴリズムトレードなど、電子取引の拡大による、市場流動性、ボラティリティへの影響や、リスクの所在を調査・把握。
- F X取引動向の把握(2011年8月レバレッジ規制強化など)と、東京外為市場に与える影響考察。
- Code of Conduct 小委員会との協働、情報共有。

以上

## 東京外国為替市場委員会委員名簿(2011年2月1日)

### <委員>

委員	役職	所属
星野 昭	議長	三菱東京 UFJ 銀行
梨本 忠彦	副議長	パークレイズ銀行
中野 北斗	副議長	みずほコーポレート銀行
竹内 淳	書記	日本銀行
井上 英明	委員	三菱 UFJ 信託銀行
好川 弘一	委員	BNP パリバ銀行
石川 昌信	委員	トウキョウフォレックス上田ハーロー
小松 淳	委員	みずほ銀行
高木 晴久	委員	三井住友銀行
北倉 克憲	委員	中央三井信託銀行
宗川 雄視	委員	トムソン・ロイター・マーケッツ
小田川 正知	委員	ゴールドマン・サックス証券
大木 一寛	委員	EBS ディーリングリソースシスジャパン
今西 晋嗣	委員	住友信託銀行
大西 知生	委員	ドイツ証券
廣田 泰司	委員	JP モルガン・チェース銀行
河野 文彦	委員	野村證券

### <準委員>

野口 嘉彦	準委員	マネーブローカーズアソシエーション
古賀 麻衣子	準委員	日本銀行
山本 嘉樹	準委員	みずほコーポレート銀行
葛原 圭	準委員	三菱東京 UFJ 銀行

### <オブザーバー>

河西 修	オブザーバー	財務省
------	--------	-----

(注)敬称略(順不同)